

舞藝六輪次第

雑誌名	日本文学誌要
巻	10
ページ	45-66
発行年	1964-09-20
URL	http://hdl.handle.net/10114/00019087

舞藝六輪次第

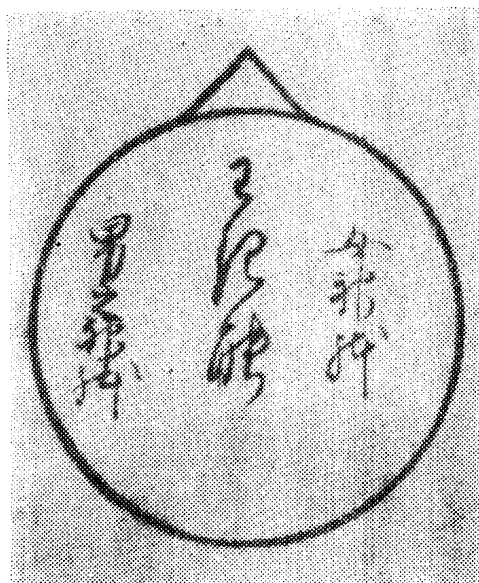
(表紙題簽)

舞藝六輪之次第上卷

舞藝の旅、延年舞哥の藝を專として、万のことをのみ学けるに、瑤き事、おもしろき心、はからざるにそ出来侍る。されは、能藝をたしなみ、其みちにいたらんとおもむかんにハ、其家々、其物ことをうかゝひなけきは、なとか人の哀みもなからんや。其物にハあらねとも、わか芸のちからとハなす也。能ハ物まねなれば、其主はハあらねとも、人のふせいはたらき、其家々のひしふるまひをよく学て、物まねのもとゝす。師を取てならへは、又人のしとなるとかや。りこんきよふなる者の、みとりきゝとりてまなふをは、につかはしくいたせとも、師になることかなひかたしといへり、萬藝

如此。しかれば、六輪とかうすることは、能かたちを六に分て、をきてとさたむること、わかなすにハあらす。しのいましめにまかせて、六輪の次才をたて、能の心得、いしやうの出立やう、たちふるまい、其名所きうせき、わけ／＼にしるしをく處なり。此輪にはつれすして、よく学ぬるを、輪ぬけといひ、舞藝の上手といふ也。(図1)

一、老松之能ハ、誠の神にハあらす、木のせい、神木なるか。但、天神のつけによりいつると作たり。是ハわきよりアイよひいたす。あいたちてかたる。又わきもそのあいの過るまてたちて居ル。口傳。脇ハ大臣。勅使にハあらす。梅津のなにかし。北野のれいむに九州安樂寺へ參詣也。梅津、しやか



女神能
わき能
男之神 図

(図 1)

たの者也。かさおりゑほし。ともにハ、折ゑほし・かみしも、太刀なともちたるてい、もつとも也。とひ梅出てハよし。色取有。すりたてゑほし。

一、はうしやう川。おとこ山の本のちのぬし八幡宮御ちんになされて、まつ社の神となり、これハ本のかみ也。脇ハ私たちのくにつくはの神主也。梅津と同事也。すりたてゑほし・きよい・かりきぬ吉。氏同神也。老松と同事。よひ出す也。

一、白楽天。是ハ住吉の明神也。脇ハたうとの人也。口傳

有へし。

一、相生。住吉の明神也。高砂といへハ能のころ、相生住吉の明神になりかたし。わきハ、ひこのくにあそのみやの神主也。はりまの高砂のうらハ舟を寄たるころ也。此能ハ三世をつくりたる能也。口傳あり。かけとも落葉のつきせぬとうたふとき、まさこにおちたる木葉にハあらず。松ハちとせをふるといへとも、なをいく代もさかへ、よの御門の御らんせらるゝといふ心に、まつのえたを見て、おちはのつきせぬといふ仕舞也。なを又口傳あり、相生の松ハ住吉にも有。

一、弓八幡。かはらの神、是本神也。わきハみかとよりの勅使にて、くわの弓を渡す事、人間の義にあひかはる事有へからず。是ハ君にさゝけ物といふ所にて弓をさゝけすして、御神たくそめてたきといふ所にてわきへわたせは、仕手の仕舞もよし。わきも、うけとり所つくはいてとりてよし。口傳ニ有。後ハすきかふり、相生のことくたるへし。

一、伏見。是ハふしみのをきなゝり。伊勢大神宮のつかはしめ、本の神也。すきかふり、又ハすりたてゑほしにてもよ

し。

一、志賀。是ハ大友のくろぬし、神といはれ給ふ。わきハ大臣、勅使也。山櫻のことを作也。すきかふりよし。

一、養老。是ハ山神也。わきハ大臣なり。勅使、すりたてゑほし。いづれも舞てわかをあくるにハ、すりたてゑほし吉。但、すりたてゑほし、すきかふりに、仕舞のかはりハなし。

一、見もすそ、つゝみのたき、吉野、かつらき賀茂、難波の梅、涿嶋、嵐山、松の尾、此たくひの能ハ、いづれも同事。

但、吉野ハ、西行にてのときハ別也。紀貫之の時ハ、仕手の心得別なるへし。口傳有。

一、鶺鴒。是ハとよ玉姫。本ハ大臣にはあらず。ゑしんの僧都也。其時しよの舞なり。御門の勅使としてハ、参詣也。破の舞也。れうをもいたゝきてよし。

一、箱崎。しんくうくわうくう也。みふのたゝみね也。かんさし・舞きぬ、小袖なともくるしからず。もし又かりきぬにてもくるしからず。小袖ハまへの仕手のきやうにハかはり

有。つまをはし平かおりてきる也。きやうをもつて出ル也。

一、さほ山。是ハさほ姫の明神、仙人にハあらず。さひしよハせんきやうのてい。まへハ仕手の小袖は□氏の、さりなから、ちかくし、きたるもよし。のちハ、かんさし、舞衣。狩衣にてもくるしからず。

一、呉羽。是ハかり人。神にハあらず。夢のめうとうほさつ也。わきハ大しん也。勅使にハあらず。住吉参詣のみちなれは、大しん一見のてひ也。後にハくれは・あやはとりいてゝもよし。まへにハ小袖。定てちよくしをきたるを、かんさし・きよい・舞衣よし。

一、西王母。わきハ御門也。仕手、小袖にちよくしをきたる也。後ハ、ぢじよにもゝをもたせて出ル。かんさし・きよひ・舞衣の袖なとよし。太刀をはく也。いつくしくつゝみてよし。

一、七夕。わきハ勅使也。仕手、後ハかんさし・小袖・舞衣、かりきぬもくるしからず。

一、源大夫の神也。わきハ勅使。未ひめを立花ひめといふ

也。して、鳥かふと。老たる神のてい也。わきの能の前のせうの出立、いづれも大口・水衣をきたる物也。つれ物もおとこなれは着て吉。せう、老たるてい、又つりたるゝていなどハ、水衣の袖を玉たすきをあくる也。木陰をはき、庭などをはき、つえ斗つきたる躰の能にハ、玉たすきハあけす。男神の出立ハ同とし。又女躰のかみのいてたちハ、天女替ことなし。

一、岩舟。是ハあまのさくめなれは、女躰に、八大龍王の時ハ龍神躰也。わきハ勅使に、仕手まへハせう。つれ、女也。

一、金札。是ハあまつほとたまの神也。伊勢大神宮のつかはしめ。天女出てもよし。

一、氷。是ハ山神也。わきハ勅使也。後ハあくせうにてもよし。

一、ひたち帯。是ハかしまの明神。して、前ハ人間のもの、つまを申て、参詣の一義也。わきハかしまの神主。明神の出たちハ、半切にはつひ、又かりきぬ。くろかしらなれ

は、すきかふりを着たるかよし。しやくまならば、たうかふりもよし。れうをもいたゝく也。

一、道明寺。仕手ハ、まへハせう也。しら大夫みやう神。わきハそう也。後ハとりかふと・かりきぬ、又ハきよひ。しやくひやうし、木をもちて出。天女舞をはやす也。

一、くす。さわうこんけん。きよみはらのてんわう、よし野へ落給ふことをいふ。くすをき出合所也。てんわう、すみかふり。わき、なしうちゑほしに太刀をはく也。して、前ハせう、舟人のてい。大口きす。つれもしのへうは。後ハ天女出ル。さわうこんけん、三たひも、又一たひにてもよし。

公家 しゆら能 武士

一、きよつね、つねまさ、これもり、道盛、あつもり、ともあきら、たゝのり、しかたゝのり、しゆん忠則、しけひら桜。これらハ、いづれも長けん・なしうちゑほし。

一、きよつねハ、わきハあはつの三郎。大口にすわうはかまを着てよし。つれ女ハきよつね北のかた。後、清経出ル

也。

一、八嶋。仕手ハ判官義経。つり人の出たち。大口きす、水衣をきる。玉たすきをあくる也。こしみのをして、つりきほをもちて出。つれのおとも同出立。後ハくんたひ。大口にはつひ、又は袖なし。なしうちゑほし、引まハし、太刀をはく也。わきハそう二人斗。いくき物語をかたるに、一段つゝ思ひいたして、見よひつる事を出たるやうに、かたるへし。する／＼とかたれば、ならいたるきやうをよむやうにて、判官にはならず。よしつねハ其時のていを、思ひいたしてかたるよし。夜るのていなるへし。

一さねもり。わきハ僧三人斗。してハまへもせう。大口ハきす。しゆすをもちて、後ハかつせうのてひ。物語ハ八嶋の心得也。太コあり。

一、ともなか。わきハそう三人斗。してハまへハ、あふはかのちやうしやなり。例式の女の出立。しゆすをもち、後ハともなかのゆふれい。かつせうのてい、八嶋の出たち也。又長者の物かたりをかたるに、つよ／＼と、又ほとをあらせ

て、おめすはゝからすかたる也。太コあり。

一、貞任。わきハそう。してハ、まへハ男。水衣・大口。後ハはつひ、袖なしよし。

一、しけひらさくら。わきハそう。してハ、まへハおとこ。後ハ大口・ちやうけん。

一、田村。わき、僧二人斗。してハ、まへ、くろかしら、とうしのことし。大口ハきす。たまはゝきをもつて、水衣。後ハかつせうのてひ。はつひ・袖なしたるへし。

一、かねひら。わきハ僧二人斗。仕手ハ柴舟にのりて出ル也。わきにひゑの山のていをとほせて、見え渡たるてひ。する／＼とかたりたるよし。

一、えひらの梅。おとこ、大口に水衣、又すわふ。わきハそう。してハかつせう。簾に屋をそへて、梅の立枝をさす。はつひ、袖なし吉

一、忠則。してハ、まへ、せう也。わき、そう二人斗、又ハ一人にても。して、後ハかつせう・長絹。こしに、たんさくを屋にそへてさす也。

一、ともゑ。してハ学、常女のいてたち也。後ハかつせうなり。大くち・袖なし・なしうちゑほし。きりに、ぬりかさ、小袖を着る也。太刀をはく也。

一、これもり。まへ、たけさと、舟にのりて出ル。かさを着て、しやうこをかくる。後ハこれもり出ル。かつせうのてい、ちやうけん、なしうちゑほし。わきハたきくちひしり。

六代出ル。後ハ六代しやうこをかくる。

一、のりつね。して、まへハおとこ。大口・水衣。わき、男。女一人出ル。友のおとこ二三斗。後ハせんたひ。のりつねかつせうの出たち。のりつねハはつひもよし。惣て三位四位、むらさきたるへし。あんとかてんわう。髪ハひんつら。大口・小袖なとよし。

一、あつもり。して、前ハくさかりのてい。わき、そう。して、後ハかつせう・長けんよし。

一、よりまさ。してハ、まへ、せう。後ハかつせう、ひをかみにハきる也。わき、僧二人斗。

一つねまさ。してハかつせう也。長けん・大口・なしう

ち、太刀をはく。わき、僧。

一、とも明。まへハおとこ。大口・水衣。後ハかつせう。太刀をはく。袖なし・はつひ。わきハ僧也。

一、通もり。前ハせう。つれ、女。舟人のてい。つり舟を、かゝり火をあかす。後ハかつせう。つれ女ハこさいしやうのつほね出ル也。まへハ水衣を着る。後ハ小袖斗にて。わき、僧二人。太こあり。

一、志賀忠則。まへ、おとこ。大口・水衣。後、かつせう。はつひ・ちやうけんよし。わきハそう二人斗よし。

一、かはら太郎。まへハおとこ。水衣。後ハかつせう。袖なし・はつひ。わき、そう二人斗。

一、たゝのふ。してハかつせう。袖なし・はつひよし。わきハおとこ、三人出ル也。あいしゆ女出ル也。僧、これもよし野住僧也。

公家女房 女能 天女遊女

一、野々宮。つねの女のいてたち。櫛を持て出ル也。後ハ大口・長けん。わきハそう一人。してハ、後、車にハのら

す。此能、女の能之口傳。心もちにあまたのしな有。ゆふ女、たゝ女、天女のこゝろハ有へからす。口傳有。作物、とりあるへし。

一、井筒。まへの野々宮のことし。あかおけ、すすをもちて出ル也。後ハ、大口・長けん、すみかふりをきる也。作物、いつゝ有へし。わき、そう一人也。

一、軒端の梅。まへハつねの女の出立。小袖ハかり。後ハ大口、ちやうけん。わきハそう二人斗也。

一、夕かほ。まへハ例式の女いてたち。小袖斗。後ハ大口、ちやうけん。わきハそう二人斗也。

一、夕かほ。まへハ例式の女いてたち。小袖斗。後ハ大口、ちやうけん、又大口に小袖をも用。わきハそう一人。つくり物、夕かほはしとみなるへし。つゝみおけ、うちにをく也。

一、もとめつか。まへハ女二人。つねの女の出立。小袖、又小袖のうへに水衣を用。うなひ乙女のいふれい也。わきハそう二人斗。して、後ハ小袖斗。右のかたをぬきたるも吉。

これハわかき女のめんなるへし。又龍のめんにてもくるしからす。つくり物、つかのうへに、かれ野々のていなるへし。

めんハ、越福来太夫座に、とく若と申申楽に、うないおとめ、十六七才の女のかほゝ、うつさするめんナリ。是を、あさきめん、ふかきめんとて、観世大夫家の面也。金春かたの小面、これも是も同さく也。ふかいめんとハ、江州えちと申所に、佛しあり。このさとに、ふかいと申武士、此女の面をうたせてもちたるゆへに、ふかいめんといふ也。面、四十はかりなる女のかほをうつしたる面也。此もとめつかのまへにきて、後ハとくわか作たるわきめんをきたるを、よきとは申へきか。さりながら、仕手のこうあんゆくならし。軒はの梅にハ、面によりて、きりをかへてうたひて、さまよきやうにと可用。金春小面ハ、年廿二三程也。是ハろんきになして用へし。ふかいめんハ、とし四十はかりなるほとなれば、例しきのきりにうたひて用へきといふ。いつれの能にも、面によりてのはたらき、立ふるまひたるを、上手と也。

一、うねめ。つねの女の出立。小袖斗。袖を持。後ハ大口・

長けん。脇、そう二人斗。

一、たかやす。まへハ例しきの女のことし。後ハ長絹。わきハそう也。

一、せひ丸。前にせひ丸出ル。後にハさか髪出。是物狂也。小袖かたぬきて、さゝの枝にしてつけて、かみハそらさまに、かつら帯のうへゝ少かみをいたす也。心よりくゝの物狂、あらけなきてひなし。ほんしやうあまたあるてい也。

一、はせを。まへハつねの女の出立也。後ハ長絹・大口。わきハそう一人也。

一、やうきひ。作物の内ニ入てかくやより出ル。大口、小袖よし。かんさしハふたいにて着る也。わきハはうし也。作物、つゝみうちのまへに有。

一、浮舟。水衣、玉たすきをあくる。柴舟ニのりたるてい也。後小袖斗也。かたをぬき、物狂の成也。わきハそうにて、おとこにても二三人也。

一、玉かつら。まへも後も、又わきも浮舟のことし。

一、杜若。まへハつねの女。小袖・水衣。ふたひにてちや

うけん、すみかふりを着す也。わき二人斗、又ハ一人にて。大こあり。

一、源氏供養。まへハつねの女のいてたち。後ハ長絹、たみゑほし、大口。わきは法師、おこと四五人つるゝ。巻物を持。南無や光源氏のいふれいといふ時、立てひらく也。

一、松風村雨。こそてに水衣をきたる。玉たすきをあげ、しほくみのてい也。つれ女も同やうに出立也。つれハ水おけをもつ也。僧一人。作物の松ハわきのあるまへに置。正面の、人のまはるほとをきて松を置也。車ハ大つゝみうちよりまへニ、ふたひのはしにをく也。此能にわきの見所有。今朝見れば、松風斗や残るらんと、こゑいたすとも、うたひて、してをは見すして、松を見るていよし。是をわきいひたることなり。此のふ、ならひおほへ、口傳に有。此のふ、しふしの物狂の能と心得へし。

一、三井寺。まへハつねの女出立。小袖斗。しゆすをもち、後ハ物くるひ也。小袖のうへに水衣、玉たすきをあくる。竹の枝をもち、かさを着たるよし。わき、そう五六人。ちこ

一人。月見のてい也。此物くるひを、まことの物くるひにハ
あらず。きよみつのむさうにより、あふみのくにみるてらへ
まいり、彼寺ハ、女人をいれさるてらなれば、つくりきやう
きして、寺へ人物狂也。作物ハ、正面の左のふたひのはしに
をく也。いづれも、はうかくに、作物のをき所きたまる物
也。

一、籠太鼓。仕手、つねの女の出立地。小袖斗。ろふに入
て、はたぬきて、にはかきやうきのてい也。是ハ、真の物く
るひにハあらず。作物ハ、つゝみうちのまへに置也。つゝみ
をろうに作也。

一、関寺小町。小袖・水衣。わきハそうにて吉。

一、そとは小町。仕手、水衣。ふたいにて、すりたてゑほ
しをきる也。わきハ僧二人也。

一、桜川。仕手ハつねの女出立。小袖、のちハ小袖に水
衣。あみをもつ。まへハ、脇ハおとこ也。後出ル脇ハおとこ
五六人。まへニ文有。

一、柏崎。まへハ小袖。後ハ小袖・水衣。玉たすきあくる

也。ふたいにて、長けん、なしうちゑほしを着る也。まへの
わきハおとこ。後のわきハそう。しんほち一人出ル也。まへ
にふみあり。

一、角田川、小袖に水衣。玉たすきを上ル。竹の枝を持。
わきハ舟人、商人二人出ル也。

一、百万。仕手ハ小袖、水衣、すりたてゑほし。玉たすき
ハあけす。竹の枝を持。わきハそう。ちこ一人。此能、口傳
有。大可有。

一、ふしたいこ。仕手、まへハ小袖・水衣。女二人、同出
立也。ぬりかさを着る。わき、大臣也。長けん・とりかふと
ふたいにて着る。作物、ふたいの右ノかたに、正面に置也。
大臣居候に、あひ向置也。にハかの物狂也。

一、なこしのはらへ。仕手、こそて・水衣。大輪をもちて
出ル。わきハおとこ也。

一、賀茂物狂。同出立也。わきも同こと也。

一、あふひ。太刀ほりともいふ。仕手ハ大口のうへに小
袖。なしうちゑほし着る。太刀をはきてもくるしからず。お

とこ、となみ山のちとう也。是ハまことの物狂にハあらず。

一、にハとり。まへハつねの女也。後ハ大口のうへに小袖。にハとりをいたゞく。狂女也。これ神のとかめの狂女也。まへのわきハおとこ。後のわきハ山ふし。こへいをおく也。

一、ゆや。仕手、小袖、常のことし。あさかほ、小袖・水衣。ふみをもつ。わき、風折・大口・長けん。たちをもたせて、とも一人。つくり物ハ車。つゝみうちのそはにをく也。はしよりまへにおく。うたひ、仕手のしまひ、三所口傳。

一、千寿。仕手ハ小袖。ゆやのことし。しけひら、大口斗、わきハなしうちゑほし、ひたゞれ。して、ことをつれにもたせて出ル。

一、しつか。仕手、こそて、ぬりかさをきる。後ハ大口、長絹、たみゑほし。わき、大口・袖なし。太刀をもつ也。

一、佛義王。まへハ小袖斗。後ハ二人ともに大口・ちやうけん。ゑほし、わき、ゑほし・ひたたれ也。

一、ほとけのはら。して、まへハ小袖。後ハ大口・長絹。

わき二人、僧也。

一、しゆうしけひら。千寿のことし。

一、江口、仕手。まへハ小袖。後も同出立。大口きもする。女三人。わきそう二人斗。作物、舟、ゆやの車の有所。口傳有能也。

一、道成寺。仕手、小袖斗。きやうに口傳あり。後、かねニ入て、そのまゝ出立。らんひやうしのととき、ゑほしきる也。後、うちつへをもつ。わき、僧五六人。口傳あまたあり。

一、三輪。して、まへハ小袖に木をもつ。後ハ作物。かくらのまい、へいハもたす。

一、かつらぎ。して、まへハ小袖、白ねりを用。ぬりかさを着る也。しもとの木、もつなり。後ハ大くち、かんさし、又舞衣、小袖にても。脇、山ふしなり。二人はかり。

一、たへま。まへハ、して、あま。衣のほうし。かた色小袖。しゆすをもち、つへをつぎ。つれ女、小袖。して、後ハ大口・舞衣・小袖・かんさし。わきハそう、二三人も。

一、誓願寺。まへハ小袖。常のことし。後ハ大くち・まひきぬ・かんさし。わき、僧二三人も吉。

一、あま。前ハ小袖・水衣。玉たすきを上ル。かまをもつ。後ハ大口、舞衣、又ハ小そてにても。れうをいたゝく。わき、男。ふさゝきの大。御経をもちて、大臣へ渡也。

一、立田姫。まへハ常の女の出立。後ハ大くち、舞衣。御へいをもつ。わき、そう二三人。かくらの舞、へいにて。

一、おはすて山。まへハつねの女のいてたち。後ハ老女。わき、おとこ二三人。

一、ぬれ衣。まへハ常のことし。後、小袖・水衣。わき、そう二人斗。

一、千寿寺。まへハ常のことし。後ハ大口・舞衣・かんさし。わき、おとこ也。

一、二人静。まへハ小袖斗。後ハたみゑほし、大口、長けん。わきハ神人のてい也。

一、あふひの上。仕手、小袖きやうあり。てるひのみこ、小袖はかり。大臣。わき、山ふし。

遊女、又物狂のしなした、心得口傳に有。

六輪之次第下卷



けんさい之鬼

鬼之能

しうけん之鬼

一、車僧。してハ、まへハ山ふしのてい。大くち・水衣・

ときん・けさ・しゆす。後ハ半切・はつひ、又ハかりきぬもよし。ころもをかさぬる。あくせうにても、へしみも用。山ふしのてい、しゆす、うちつえ、けかりは。わきハそう二三人もよし。車ハ土車にのる。このうちつえ、馬の上にて、むちをさしたることし。又ぬくときも、むちをぬくかことく。

わきハ少もおかされぬてい、よく可有なり。鬼、れん／＼心

やはらかくていたるへし。この鬼へくるひたるハ尤也。けんさいのおに也。

一、くらまでんく。山ふし也。車そうのことし。同出立也。但、うちつへハいらす。さかきにも、うちハにても候へもつ也。此能、心をよふほとくるふへし。しやなわうのいてたち、大口・小袖。後ハ大口・袖なし。長刀を持。わきハそう。花見のてい也。

一、舍利ハ、仕手、まへ、くろかしら、水衣、大くち、又ハ小袖、水衣もよし。とうしのてい也。後、しやくま、へしみ、半切・はつひ、又は小袖に半切斗もくるしからす。いたてんハ、引まはしにかねのわ。大口にはつひ、又袖なしに小袖。大口もよし。ほうはうを持。してのおにハ、しやりをもつ。わき、そう一二人斗。

一、山うは。して、まへハつねの女の出立也。小袖。後ハ大口のうへに小袖。かみにハ白斗、かつら帯ハ例式、ぬの、はちまき。鬼女の面也。一、此能のうちつえぬくへきやう大事也。女鬼のうちつえにもかはるへし。口傳ニ有。ぬき所

有。わきハおとこ。ひやくま、山うは、つねの女の出立やう也。つれ五六人もツルゝ也。

一、春日龍神。して、まへハせう。宮人の出立。風折・大口・わうゑ。後ハりう神出ル也。れうをいたゝきてよし。飛出の面、くろひけきたるよし。黒かしら、又ハしやくま、いづれもよし。うちつへをもつ也。わき、そう二三人斗。

一、うかひ。仕手、まへハせう。小袖・水衣、こしみのをする也。たいまつをもつ。後ハ常の鬼にハかはる。俱正神のてい也。すきかふり、又ハたうかふりをきへし。うちつえを持。わき、そう二人。

一、あたちか原。くろつか、いとくりともいふ。して、まへハ女。しつのめのてい也。小袖に水衣、玉たすきを上ル。後ハつねの打たる鬼女の面。うちつえを持。わき、山伏二人。

一、谷行。してハ女。まへ、つねのいてたち也。小袖。後、きかく鬼神。半切、はつひ、あるひハ袖なし、又ハ半切に小袖もよし。よきをもつ。わきハ山伏五六人。ゑんの行者

出ル也。かみに長ほうしをきる也。面ハせう。大口にても半切にても吉。水衣、くわらをかけて、しやくちやうをつへにつきて出ル也。たゝみのたい有。

一、草なき。してハ、まへハおとこ。やしんの躰。大口・水衣。草をはさみてもつ。後ハくろかしら・たうかふり・半切・はつひ・大口・そてなし、又は小袖にてもよし。かみをつゝみて、わきにかくる也。つれ、女。まへハこそて・水衣。後ハ大口、こそてにかんさしを着る。たち花ひめ也。わきハそう一人。

一、しきみてんく。して、しやくま、へしみ、又ハあくせう。半切、はつひ、かりきぬに衣をかさねたるもよし。袖をもつ。けかりハ何の鬼にもはくへき也。つれ、女。まへハ小袖・水衣、又ハ小袖はかりも。わき、山ふし也。

一、大山府君。してハつねの鬼のことし。しやくま斗也。てん人ハ大口に小袖、かんさし。後ハ舞きぬ、長けん、きよいなともよし。花をもちて出ル也。わきハくげの出立。さりなから、すみかふりハきす。

一、めかり。して、まへハせう。常の出立也。後はおに也。天女有。つねの出立也。かまをもつ。めをかるてい也。

一、けんしゆ。して、まへハせう。つねのことし。大口、水衣。小袖に水衣も。つれ、女。つねのことし。後ハ、して、おきのあらゑひす。かみにハくろかしら、すきかふり、くちあきのめん。かきをもちて出ル。作物ハ宮のてい也。けんしゆ、此玉のうちにけん有。いつかたへまかせても、つるきのさきにしむかふ。これハしんくうくわうくう、いこくたいちの御とき、御しんの玉也。おさなき物、つるきをもちて出ル。大口・袖なし、又ハ大くちニ小袖も。脇ハ大臣也。

一、やかもち。してハ例式のおに也。やかもちむすめハ小袖はかりよし。わきハやかもちなり。おにハくしやうしん也。

一、なきふとう。してハ、まへ、とうしの出立。小袖、水衣、くろかしら。後ハふとうの仕立也。わきハ山ふし也。

一、せうき。まへハとうしのてい。後はくろかしら、たうかふり。けんをもちて出ル。わきハおとこ也。

一、まつの山かゝみ。してハおに。やかもちの心也。わきハいふれい。女いつる也。むすめのいてたちハ、つねの女のいてたちなり。

一、たんふう。してハ、まへハおとこ。大口に小袖、くわらをかくる。にんのすかた也。後ハ鬼。くまのこんけんのてい也。御へいもちて出ル。作物、舟有。わき、山ふし。ちこ一人出ル。ほんまハなしうち、ひたたれ。

一、てうふくそか。してハふどう也。ふとういてたち也。前にハ、よりともはこね御社参の、又くとうすけつね出ル。よこほし・ひたゝれ。頼朝、かさおり・大口・すいかん。わきハそうなり。はこわう出ル。出たち、大口に小袖をきる也。

一、大木。してハとうしのてい也。くろかしら、小袖、水衣。後ハはっひ。木のせい、大口、半切、はっひなとよし。神にハへいをいたゝく也。わきハ、山ふし五六人斗。

一、こわう。してハくまのゝこんけん。つかはしめハうせん神。大口、半切、はっひ、かりきぬ、しやくま。御へいをもつ也。わきハ山ふし。なとりの老女、小袖に衣。俱おとこ二

三人斗。くちあきのめん、またハへしきも。

一、石神。してハしやくま・へしき・半切・大口・はっひ、かりきぬ。つれ女ハつねのいてたち。わきハおとこ也。

一、おたまき。してハ、まへ、大口・さしぬき・かりきぬ・すみかふり。後ハ大しやのてい。はっひ・かりきぬ。つれ女ハ、れいしきの出たち、小袖也。おたまきをもつ也。わきハ女也。

一、熊野参。こわうと同事也。出立ハ、

一、さかほ。おに、半切・大口・かりきぬ・はっひ、ほこを持也。わきハ大臣也。

一、やたてかも。して、まへハ女也。つねのことし。つれも同。後ハ、いかつちの神也。はんきり・はっひ・かりきぬ、しやくま・へし見、又ハくちあきのめんもよし。わきハ大しんの出立。かものみやへ、はりまのむろの明神の神主参詣也。つくり物あり。

一、玉水。してハ、前ハせう。後ハ鬼。つねのいてたち。わきハそう也。

一、夜天神。してハ、まへ、大口・さしぬき・かり衣・すみかふり也。後ハ、白きたれかみ、あくせうの面・かふり・さしぬき、太刀をはく也。

一、かんせうしやう。してハとうしのてい。後ハ一夜天神の出立。あくせう、又ハへしみ吉。はらひのかみ二人。れいしきのおにのてひ、ほこをもつ也。口あきの面よし。わきハそう也。二三人斗。

一、せつしやうせき。して、まへハ女也。つねのいてたち、小袖。後ハ、つのうちたる女の鬼。小袖、大口。わきハそう二三人斗。

一、はゆふ。してハおに。とりかふと、しゃくま、あくせうへし見、大口、半切、かりきぬ、はつひ。つくり物ハ大こ。わき大臣也。

一、たうくわんふとう。してハ、まへハかり人の躰。大口・袖なしニ弓を持。後ハつねのおに也。

一、つな。してハ、まへ、うは。常のいてたち。小袖、又ハ水衣をかさぬる。後ハおに。つねのことし。つなハ大口・

小袖、又ハはつひ・袖なし、太刀を持。

一、雪鬼。してハ、まへの出立。後ハ山うはのことし。わき、そう也。

一、恋のおもに。してハまへ、せう。小袖、水衣。後ハあくせうの面、半切、はつひ、大口に小袖。女、常の出立。わきハ大臣也。

一、あやつゝミ。出立、わきも恋のおもにのことし。

一、舟はし。してハおとこ。大口、水衣。のちハくろかしら・はつひ・半切・小袖・うちつへ。めんハ口あきあくなん。つれ、女。小袖・水衣。わきハ山伏二人斗。

一。かなハ。してハ。まへ、つねの女のいてたち。小袖、又水衣をかさぬる也。後ハ女鬼。かみにかなわをいたゞく。しゃくまをゆいわけてもよし。又同かつらにてもくるしからす。半切、あかき小袖を着る也。うちつえをもつ。鬼、上下にて出る。わきハせいめい。大臣急ほし、大くち、長けんのいてたち也。

一、やかん。してハ、まへハつねの女のいてたち也。後ハ

かなハのおにのことし。わきハなしうちゑほし。大口ニひた
ゝれの上。又ハはつひ、又小袖。僧二三人はかり。

一、たけふ。して、前ハ大口、小袖、又ハはつひ、袖な
し。後ハあくりうの鬼。くろかしら。しやくまにてもよし。

一、しゆてんとうし。仕手はくろかしら。とうしのてい

也。大口・水衣・小袖。後ハつねの鬼の出立。半切・はつひ・
うちつへを持。わきハそう二三人斗。

一、かふう。してハ、まへハせう。小袖、水衣、こしみの
をする也。玉たすきを上ル。てんとうのてい也。後ハくろか
しら、あくおとこ。おに、ほこをもつ。太刀をこく也。たゝ
みのたいの上に、面おく也。わきハ草かり四五人。

一、ちり山。してハ、まへ、つねのせう。のち、鬼。例式
の出立也。わきハそう也。

一、なからのはし。して、まへハ常のせう。後ハ鬼。くろ
かしら、又しやくま。めんハくちあきおとこなともよし。わ
きハそう二人斗。

一、須磨。してハ、まへ、つねの女の出立。小袖、長絹、

すみかふり。ふたいにできる也。後ハ常にある鬼也。わきハ
そう二三人。

一、小林。してハ、まへハ風折ゑほし、大くちにかりき
ぬ。後ハ半切、はつひ、小袖、そてなし。かふとを着る。長
刀を持。わきハ僧一人。つれ女、これ、めくらこせ。小袖、
水衣なと吉。

一、たかむら。してハ、まへハせう。ふねさし。小袖に水
衣、玉たすきあくる。後ハおにのてい。くろかしら・たうか
ふり・半切・はつひ、又は袖なし。金のふたをもつ。

のふの大事、鬼にあり。けんさいのおになとハ、くるひて



武公
常陸帯之能
田夫野人

(図 3)

も、くるはすともくるしからず。いふれいのおにハ、ゆふに
してくるはす。つよきをよきといふ也。しうけんのころへ
大義なるへし。(図3)

一、こかう。してハ、まへ、大口、ひたゝれ、風折急ほ
し。後ハ大口、長けん、むちをさす。同文あり。こかう、出
立、常の女のていなり。小袖はかり。ゆふ女、小袖斗。わき
ハ大臣。つくり物、風折。又、此能、馬のうへナリ。めい月
に、むちをあけてこまをはやめいそかん。此うちをあくるニ
れいしき。馬をうつこと、大きにあやまり也。むちをあけ
て、月の光にむちのかけを見て、こまのいさめるむち也。あ
けやうにくてんあり。馬のうへにて、ゆみ、からかさをうけ
取渡す事あり。わか弓。からかさをもちたるに、重てもつこ
と大事也。是口傳の第一也。同ゆかけのをゝとむること、小
笠原の家のいづれも大事也。能の秘事ニこれを相傳の處、代
々まきれあるへからず。御当家の秘書也。

一、よこ山。して、まへハ上下。後ハ大口、すわふ。かま
をもつ也。同草をはさみてもつ。かさを着る。女はう。小袖

に衣をかさねてきる。扇をこしにさす。はつ雪。ゆふ女、出
立、小袖。ともにおとこ五六人斗。して、ふたいにて、急ほ
し、ひたゝれのかみを着る也。くめ川のいてたち、急ほし・
ひたゝれ。安との状をもつ也。

一、もり久。して、小袖に大口、くわらをかくる。しゆを
もつて、ろうこしにのり、後ハ急ほし・ひたゝれに。わきハ
なしうち急ほし・そてなし・はつひ、小袖に大口。ともにハ
袖なし、なしうちにて出ル也。

一、あしかり。してハ大口、水衣。あしをはさみてもつ。
後ハふたいにて、急ほし・ひたゝれ。女、つねのいてたち、
小袖。わきハおとこ。作物、ふたいさきにをく也。俱のおと
こ三人斗。

一、かんやうきう。してハ大口、かりきぬ、たうかふり。
大臣七八人斗も。きさき五六人。出立ハ小袖。わきハ大口也。
袖なし、又はつひ。つるきをいたす。作物、いろ／＼あり。

一、あたか。してハ山伏十二人斗。判官ハ長絹・大口、ふ
たいにて水衣をきる。わきハ男也。ぬりかさ・おひ有へし。

一、土車。してハ大口、水衣。ちこに水衣。土車にのる。
わき、そう一人。かさをきる也。ちこ、さゝらをする也。し
てハかつこをわきにかくる也。

一、はま川。して、同出立。ゑほし、ひたゝれ。脇ハ僧。
ちこ一人。僧六七人。舟にて、はやし物あり。

一、とうゑい。同出立。ちこ、おとこ一人出ル。わきハそ
う一人なるを、しての出立のやうに、ゑほし・ひたたれ・大
口。とものおとこ、五六人。舟にて、はやし物にて出ル。

一、七騎落。して、なしうちゑほし、大口、はつひ、長け
ん。よりとも、なしうちゑほし、大口、はつひ、長けん。つ
れ七人。わきハなしうち、小袖、弓をもつ。ちこ一人。大
口、小袖。

一、鶴若。まへ、うへした。後、なしうちゑほし・大口・
小袖・はつひ。つれも同出立。うへあり。つるわか弓をもつ。
一、かるかや。して、そう。小袖、水衣。たきゝをおう。
ちこは大口、水衣よし。わきハおとこ。かみしも。

一、六代。してハそうもんかく也。大口、水衣。六代ハ小

袖ニはかま也、俱ハなしうち、袖なし、大口。女、つねの出
立。小袖。

一、望月。して、上下。女、つねの出立。小袖、又ハ水衣
を重ねる。ちこ、大口、水衣。して、後ハしゝかしらをいたゝ
く。上下のうへに小袖きて舞也。わき、大口にすわふ。たひ
人のてい。

一、高野物狂。して、大口、水衣。ちこ、一人出ル。わ
き、そう也。

一、はし立。して、まへハ上下。後ハ大きくち・水衣、玉た
すきをあくる。かつこを、わきにかくる也。まへ、ちこ一
人。小袖、はかま、のち八そうのいてたち也。わきハおとこ
也。

一、にしきゝ。してハ、まへ、上下。女、常の出立なり。
小袖。して、後ハくろかしら、かつせう袖なし。城へよする
よせても同出立也。

一、すゝき。してハ、まへ、上下。後ハ大口、ふたひにて
ゑほし、ひたゝれを着る。頼朝、かさおり、長けんにてよき

也。

一、めくらさた。して、ゑほし・ひたゝれ。わきもゑほし・ひたゝれ也。

一、清重。仕手、山ふし。大口に水衣。わきも同出立。かちはら、かりはのてい。たか人也。して、おひをおいて出ル。切合能也。

一、人形。してハそうなり。大口・水衣。頼朝、かさおりゑほし、大口、ちやうけん。男一人、上下。後ハ人形出ル也。一人ハ赤人の形、一人ハ白キ人形也。

一、馬こひ。してハ大口・はつひ・袖なし。いつも同出立也。

一、鉢木。してハ、まへ、上下。後ハかつせう、大口、袖なし。わきはそう也。女、常の出立。わきそう、後ハともをつれて出ル。大口、水衣、くわらをかける。さいみやうし殿也。

一、はうかそう。してハそう。まへハ小袖・水衣。後ハ大口・水衣。つれのおとこ、大口・袖なし、弓をもつ。しての

そう、しゅちやうにうちハをそへてもつ。しゅすをはもたす。おとこ、大口にすわうを着る也。

一、いそや。してハ大口・すわふ、くわらをかくる。後ハ大口ニ小袖。ろうしゃの躰也。ちこ一人。めのと、おとこ。わきは大口・袖なし。

一、濱ならし。してハ、まへハ上下。後ハ大口・水衣。ゑほしひたゝれ、ふたいにて着る。女ハ、まへ、つねの女の小袖。のちハ小袖、水衣、玉たすきを上ル。してハゑふりをもち、地ニ一人。わきハおとこ五六人出ル也。

一、満中。してハゑほしひたゝれ。わきハ風折、大口、狩衣、そう一人、ちこ出也。

一、せんし。してハそう、小袖。わきハなしうち、こそて・袖なし。つれハ上下。六七人斗。してハなきなたをもつ也。

一、もりや。してハせう。そま人の義也。小袖・水衣、たまたすきをあくる。後ハかつせう也。太子ハひんつらにかみをゆいて、大口に小袖。後ハかつせう也。やくら、作物に有。

太子ハ弓をもつ。してもゆみをもつ。

右此能にハいつれも同出立也。能にハ何も心かはる。口傳アリ。

雜之能

一、かんたむ。してはくろかしら・大口・水衣・はつひ、くわらをかくる。しゆすをもつ。からかさをさして出る也。作物、たたみのたい。うへ、よく／＼かさりて、まくら有。こしをかきて出ル。わきハおとこ二人。ちこ一人。大しん五六人。此能心持口傳アリ。

一、錦木。仕手、まへハ大口・水衣。後ハくろかしら・はつひ・半切。まへにはにしきゝを持つ。つれ女、ほそぬのをもつ。小袖・水衣。わきハそう二人斗。つか有。

一、かよひ小町。して、くろかしら・大口・水衣、玉たすきを上ル。女、まへにこのみ、つまぎをもちて出ル。女、小袖。わきハそう也。

一、うとふ。してハ、まへ、せう。小袖・水衣。かた袖と

きて、わきへわたす。後ハくろかしら、小袖・水衣。女、常の出立。わきハそう。ちこ一人。かさをわたす也。

一、あこき。してハ、まへ、せう。つねのことく、後ハくろかしら、小袖・水衣、玉たすきを上ル。あみをもち出ル。わきハ僧也。

一、てんこ。してハ、まへ、せう。つねのことし。後ハくろかしら、大口・はつひ、袖なしにても、小袖をかさぬる。わき、大臣也。女、つれ、まへハあり、つねのことし。つくり物のてひ有。

一、松虫。してハ、まへ、大口・水衣。おとこ一人の躰。

後ハにしきゝのいてたち同也。わきハおとこ也。

一、しやう／＼。して、まへ、小袖。とうしのてい。水衣。後ハ半切・小袖、又ハあかきはつひよし。しやくまたるへし。わきハおとこ也。つほをもちて出ル也。

一、ふちと。してハ、まへ、うは。小袖・水衣。後ハくろかしら・大くち・水衣。わきハなしうち・はつひ・小袖・袖なし、又こそて。して、つへをつく也。

一、はやとも。してハ、まへ、せう。こそて・水衣。わたしもりの躰。後ハなしうちゑほし・大口・はつひ・小袖、ふたいにてかふときるなり。いかり出ル。つれおとこ、舟にのりて出ル。水衣、玉たすきを上ル。せんたひ出ル。ひんつらにかみをゆひて、たひのあま、大なこんのつほね、にひのあま、はなのほうしたるへし。

一、女郎花。してハ、まへ、せう。小袖・水衣。しゆすをもつ。後ハすりたてゑほし・大口・ちやうけん。女ハ小袖。わき、そう一人也。

一、ありとをし。してハ大口、わうゑ、又はかりきぬ、風折ゑほし。からかさをし、たいまつをとす。わきもかさおり・大口・長けん。をとこ三人斗也。

一、をしほ。して、まへハせう。小袖・水衣。花のえたをもち、後ハすみかふり。大くち、大もんのはかま、又ハ大口はかりにても、かりきぬ、き 。花のい。作物、花車出ル。脇ハおとこ三人斗。

一、とをる。して、まへハせう。しほくみのてい。小袖・

水衣、こしみの、玉たすきをあくる。但、にないおけにあらねは、たまたすきハあけす。後ハすみかふり、大口、大もんはかま、きよい、かりきぬ。舞いきにひ事あり。口伝。わきハ僧一人。はやしも口伝。

一、しねんこし。してハ水しき・大口・水衣・しゆす。つねのことし。ちこ、又女。ふしゆ文をあくる。わき、おとこ三人斗也。

一、とうかんこし。してハかつしき也。大くち・水衣・しゆす・くわら、つねのことし。しねんこし同事也。わき、男二人斗也。

一、花月。して、かつしき也。大口・水衣・なしうちゑほし。弓をもつ。わき僧一人也。

一、さき。して、大口、ねりを着る。かみには鷲をいたゝく。しろき引まへし。扇ハもたす。御門ハすみかふり・さしぬき・かりきぬ・長けん・きよひ。わき、大臣。ともに同事。蔵人、かさおり・大口・長けんたるへし。

一、かわつ。して、まへハ女、つねの出立。小そて。かわ

つハ大口・はつひ・ちやうけん、又ハ小そて、わきおとこ三人。

一、めくらかけきよ。して、たうもうす・大口、水衣をかさねてもよし。わきに、おとこ二三人はかり。

一、哥うら。して、白きひきまはし、なしうちゑほし、大口・水衣。弓、たんさくをつけもつ也。わきハおとこ。かみ下。二人。

一、とくさ。してハせう。大口・すわふ、草をはさみてもち、ともにつるゝおとこも同事。脇僧同。しんほち一人出ル。

一おとひら。して、れいしん也。とりかふと・大口・かりきぬ。僧一人。

一、せつたい。して、あま。はなのほうし、小袖、かたいろ、しゆすをもち、地こ、小袖、はかま。わき、山ふし拾二人。

一、くまさか。まへハそう。小袖、水衣。のちハ・ゑんひん・半切・はつひ、又ハ小袖、なきなたもち、わき、そう一

人。

一、のてら。まへ、つねの女出立。後ハれうをいたゝき、はんきり・大口・小袖なとよし。脇ハおとこ二三人。僧にてもよし。

一、あんの字。して、つねの女の出立。のち、かふり・きよい・小袖。ほこをもつ。わき男、大口・袖なし。

一、たうせん。してハせう。小袖、水衣、玉たすきをあく。ちこ二人也。

右此本中村藤七郎殿本写也

時慶安四年辛卯 林鐘中旬